

北海道シダ植物相調査報告 3

札幌市 武田 千恵子

はじめに

北海道は冷温帯から亜寒帯に属しているためシダの種類はさほど多くなく、約 150 種および約 30 雑種が報告されている(海老原 2016, 2017)。北海道は面積が広く踏査が困難な山岳地帯も多いことから、シダ植物が詳細に調査されていない地域が多い。シダ植物は種によっては変異が大きく、雑種を良くつくる属もあるため同定が難しい(倉田・中池 1994)。研究者が少ないこともあり、道内では本州以南のように雑種の報告が多くはない。北海道のシダ植物相を明らかにする一助として、石狩地方の新篠津村の私有地と札幌市清田区にある、ふれあいの森周辺のシダ植物相を調査したので報告する。少しでも多くの方にシダ植物に興味を持って欲しいと考え観察する際に必要な同定ポイントも記した。

調査方法

観察したシダ植物を野帳に記録し、標本を採集したが根を取らないようにするなど最低限の採取に留めた。またごく稀にしか観察できない種は写真撮影した。科の配列・和名・学名(著者名は省略した)は日本産シダ植物標準図鑑(海老原 2016, 2017)によったが、ハナヤスリ科の一部については佐橋ほか(2011)によった。採集した標本は、北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS)と国立科学博物館標本庫(TNS)に寄贈した。

1 新篠津村 沼ノ端

調査地概要

石狩地方の北緯 43 度 14 分、東経 141 度 37 分付近、標高約 8 m にあり、周囲は田畑で溝に囲まれた 2.3ha の私有地である。キハダやシラカンバ主体の広葉樹林、ヨシ群落が広がっておりミズバショウ群落が見られ、ヒメシダ・ニッコウシダ・ワラビの大群落が広がる泥炭湿地である。このような自然環境は開発で少なくなっており当地は貴重な存在である。

調査は 2016 年から 2017 年にかけて、延べ 9 日間行った。私有地であるため立ち入りには土地所有者の許可が必要である。

調査結果

17 種 3 雑種を確認した(表 1)。種内分類群については表 1 を参照されたい(表 2 も同様)。ニッコウシダとメニッコウシダの推定雑種を確認した。ニッコウシダの包膜には毛があるが、メニッコウシダは無毛であり、葉身はニッコウシダが広披針形～披針形(岩槻 1999)で、下部羽片は著しく縮小し、葉柄に微毛があるが、メニッコウシダは下部羽片の縮小はあまり著しくなく植物体全体に毛が多いとされる(大塚 2004)。海老原(2016)ではニッコウシダが 2 倍体であるのに対してメニッコウシダは 4 倍体であり、包膜の毛の量は同定の指標として用いるのは難しく、メニッコウシダはニッコウシダより幅の広い葉身